



文責
伊平屋村
教育委員会
松田 哲市



「主体的・対話的で深い学び」の実現へ

～これからの社会で必要な資質・能力を育む「授業づくり」～

演題 「すべての子に学びを保障する授業づくり」

講師 一般社団法人麻布教育研究所
村瀬 後胤 氏

令和四年四月十三日(水)伊平屋村離島振興総合センター大ホールにて、村内の全教職員が集い、「すべての子ども達の学びを保障する授業づくり」について研修を行った。講師に村瀬公胤氏(一般社団法人麻布教育研究所所長)・岸本琴恵(名護市教育委員会主幹)を招き、午前中は村内三校の授業参観、午後は総合センターで講演会を行った。

講話では、沖縄県の教育施策の大転換について「量Ⅱ結果としての『学力』への注目」から「質Ⅱ過程である『学び方』への注目」の転換について触れ、「新たな時代への対応する視点を持ち、授業改善を推進していく」こと、具体的な実践として「子どもたちが『考える』授業」が今必要であること、そのために「子どもたちは『教わるから、学びとる』へ」、「先生は『教えるから学びとらせる』へ」の視点での授業改善が今、必要であることをご教授頂いた。

村瀬氏は講話の中では、午前中の授業参観時の授業の映像を共有し、子ども達の学ぶ姿を細かく見取りながら、子ども達にとって「質の高い学びとは何か」について、教職員に考えさせながら、
これからの授業づくりの方向性を示した



講師【村瀬公胤 氏】



講師【岸本琴恵 氏】

研修会の感想から

・子どもは不安な分だけ、傷ついた分だけ荒れる。そういう子には困り感があること、そして、問題行動の背景にある子どもの思いとしては恥をかきたくないという思いがある等、子どもの気持ちの面についても学ぶことができた。授業中の子どもたちのことを色んな観点からみて、支援していきたい。
・自分自身の授業を振り返ってみると、子どもとの一問一答的な発問をよくしていたと反省しました。それは、一番考えさせたい学習課題を明確にできていないからだと思いました。また、子ども達が深く学ぶための学習課題の設定が難しそうでした。試行錯誤しながら、適切な学習課題を設定できるようにしたいと思います。

講話(村瀬氏)のスライドより

「課題づくりのコツ」

- 教えたことは、発見させる。
- 選ぶことから始まる。
- 答えからの逆思考

「協働的・探究的な学びと多様な子ども達」

- これまで：一つの答えがゴール
・できる子、分かる子、早い子



- これから：説明、理解、表現がゴール
・変わった子、ゆっくりな子、面白い子
・相互承認による、非認知能力の育成



「授業で、学び合い、支え合う子ども達」



『やってみよう課題』がそこにあれば、必然的に『学び』は生まれる」